

小田原テニスリーグ戦 規定 Q&A

1. 選手登録

2).追加登録メンバーの連絡は、既に対戦が終わったチームには不要である。

2. 試合日程の再調整

1).試合消化期日までに消化できなかった場合は、没収試合とし、スコアを両チーム男子0-9、女子0-5とする。
また、ホームチームが候補日を設定せずに、試合を実施できなかった場合はホームチームの棄権負けとする。

3. 試合方法

2).リーグ戦は協会内部の親睦及び技能向上を目的に開催しています。
いわゆる”作戦オーダー”は、本趣旨とはかけ離れているため、実力順にオーダーを組むことを促しています。
報告がなされると、担当常任理事から該当チームへ注意を促します。
報告の件数があまりにも多い場合や注意しても改善されない場合は、運用ルールを見直します。

4).延期時の試合日程は、複数日に渡っても構わない。

7).使用するボールは、ホームチームの時は、男子はダブルス4試合分、女子はシングルス2試合分を負担する。
アウェイチームの時は、男子はシングルス5試合分、女子はダブルス3試合分を負担する。

4. 使用するコート

2).協会が確保したコートを使用する場合、ホームチームは1試合当たり男子6000円、女子3000円支払うこと。
(小田原テニスガーデンと西湘地区体育センターで単価が異なるため平均化した額です。)

ホームチーム	アウェイチーム	試合場所	コート代
一般チーム (非確保、企業で確保など、営業チーム以外)	一般チーム 営業チーム	協会確保コート	ホームが協会に当日支払う 男子:6000円、女子:3000円
一般チーム	一般チーム 営業チーム	公営コート	ホームが全額負担
一般チーム	一般チーム	営業チームのコート	ホームが全額負担
一般チーム	営業チーム	営業チームのコート (アウェイチームのコートを借用する場合)	ホームが3万円(女子半額)を営業チームに支払い、 協会が営業チームに1万円(女子半額)を支払う
営業チーム	一般チーム	営業チームのコート	協会が営業チームに1万円(女子半額)を支払う
営業チーム	営業チーム	営業チームのコート (ホームの)	協会が営業チームに1万円(女子半額)を支払う

★営業チームがホームの場合、小田原テニスガーデンなどの公営コートの利用を禁止する。

3).

・二宮町緑が丘テニスコート(Zip TC)は、対戦チームの同意が得られれば、使用を認める。

・渋沢丘陵テニスクラブのコートの使用は、当協会のエリア外であるため、認めていない。

但し、対戦チームの同意が得られれば、この限りではない。

ダイヤモンドヒルTCがホームとして使用した後のコート代はホームが負担する。

ダイヤモンドヒルTCがアウェイで、ホームチームから使用したいとの申し出があった場合は、使用を許可する。

その際のコート代は協会確保コート費用以下とし、事前にホームチーム側に提示し、了承を得ること。

なお、ダイヤモンドヒルTCが対戦チームでない場合は、渋沢丘陵TCのコートは使用禁止。

・湯河原海浜コートの使用は、当協会のエリア外であるため、認めていない。

5. 結果報告／延期報告

- 1).リーグ戦速報センターへの報告は、男子(女子)何部何ブロックのどのチームの対戦で、スコアがいくつでどちらが勝ったのか明記してください。

記載例 男子3部Bブロック ★★★ v s ◆◆◆ 6-3で◆◆◆の勝ち

- ・けが等によるリタイアの場合は、勝者はリタイアの後、残りのゲームをすべて勝ったとしてゲーム数を記録し、敗者はリタイアするまでに取得したゲーム数を記録する。(A対Bの3セットマッチで、Bが63,22のとき、けがでリタイアした場合、勝者はAでスコアは、36,62,60と記録する。)
- ・棄権などで試合が不成立だった場合、勝ちチームが棄権勝ちであることをリーグ戦速報センターへ報告し、棄権勝ちと明記して結果報告書を各部担当常任理事に郵送すること(相手チームのサインは不要)。

8. その他運営事項

- 2).H20年度の試合消化期日は11月9日までとする。日程調整会議では雨による延期試合を考慮し設定ください。

◇その他補足説明◇

- ・セルフジャッジについて
 - ・セルフジャッジは自分コート側のアウト/インのジャッジは自身で速やかに判断しなければならない。きわどく判定ができないときはグッド(相手側有利)と判定する。
 - ・サーバーはゲームの開始時はゲームカウント、ポイントの開始時はカウントを相手に聞こえるように大声でコールする。
レシーバーは同意を示すためにサーバーのコールに対し合図を送り相互確認を確実にすること。
- ・フットフォルトやラインジャッジについて
 - ・ボールマーク調査(BMI)について、小田原テニスリーグ戦ローカルルールとして、クレーコートも含め、BMIは行えないこととする。
 - ・フットフォルトやラインジャッジについて、試合進行上問題があれば、両チームで協議の上、線審をつけることができる。その場合、両方のライン(エンドラインなど)に必要なに応じて、それぞれのチームから同数の線審をつけること。但し、あくまでもセルフジャッジであり、線審はフットフォルトや選手のコールが明らかに間違っていた場合にのみ、オーバールールを行うことができる。
- ・けいれんの処置について
 - ・筋肉のけいれんは対戦チームへ伝えたくてでメディカルタイムアウト(MTO)をとることができる。処置にはベンチコーチ(選手を兼ねていても可)などの特定の1名がトレーナーとして、及びダブルスの場合にはパートナーも行うことができる。
MTOは、1部位の症状につき1回とることができ、1回につき3分を超えてはならない。